

独立行政法人 国立病院機構

## 横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける**患者中心の医療**を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ**地域完結型医療**を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、**地域で選ばれる病院**になるべく日々努力していきます。



記事「健康フェア2018の開催について」はP1に掲載



### 第61号 目次

行事紹介 ..... 1  
 「健康フェア2018の開催について」  
 新任紹介 (精神科部長・産婦人科部長・脳神経外科部長) 2  
 お知らせコーナー  
 横浜医療センタードクターカーの紹介 ..... 3  
 特集 - 医師が語る疾患 - ..... 4  
 第20回 内視鏡治療について  
 消化器内科部長 野中 敬  
 連載 ..... 5  
 職員リレー紹介 第19回  
 ご存知ですか? 当院の「医療メディエーター」

病診連携施設紹介 ..... 6  
 戸塚クリニック  
 外来担当医表/編集後記 ..... 7

発行 月：平成30年7月  
 発行 行：独立行政法人国立病院機構  
 横浜医療センター 広報委員会  
 発行責任者：平原 史樹  
 住所：横浜市戸塚区原宿3-60-2  
 電話：045-851-2621  
 FAX：045-851-3902  
 URL：http://www.yokohama-mc.jp



●当院携帯サイトはこちらから

# 行事紹介

## 健康フェア2018の開催について

地域中核連携室長 富田 義徳

当院を市民の皆様を知っていただく機会とするために、横浜医療センター健康フェア2018を6月19日(土)の11時から15時まで、戸塚区役所3階の多目的スペース・区民広場をお借りして開催をしました。開催は昨年11月の初開催に引き続き、今年度は第2回目の開催となります。

昨年と同様に当院の専門スタッフによる、各種相談コーナーや、健康チェック・体験コーナーのほか、戸塚区薬剤師会のご協力を頂いてお薬相談や肺年齢測定のコナーなどを設けました。

昨年の経験から、市民の皆様の関心の高い測定系のブースを増やし臨みましたが、特に骨密度測定コーナーでは多くの来場者の方々にご利用いただき、市民の皆様の健康に対する関心の高さを伺うことが出来ました。また、神経内科高橋先生による脳卒中のミニ講座も即興で開催され、質問にも丁寧にお答えいただき、参加者の方々の満足度は高かったものと思われます。

また、一番の心配であった天気は何とか1日もち、来場者は昨年のほぼ倍の約250名の方々にお越しいただきました。行政等の行う市民啓発と異なり、医療機関らしい専門的な内容を評価していただく声などもあり、来場された方々からはおおむね好評の声をいただきました。

昨年に引き続きの開催で、運営についてはこなれてきた部分もありますが、イベント準備から当日も一丸となれたところに、当院のポテンシャルの高さをあらためて実感し、私個人も貴重な経験をさせていただきました。次年度以降も、当院のPRにより効果的な開催方法、ならではの企画を検討し、さらに特徴あるものにしていけたらと考えています。





# 新 任 紹 介

## 精神科部長 齋藤 聖

はじめまして。平成30年4月1日付で精神科部長に着任しました齋藤聖と申します。私はこちらに赴任する前は精神科救急病棟や認知症専門病棟など専門領域で臨床に携わっておりました。

この度、地域の中核病院である横浜医療センターに赴任となりましたが、これまで学んだ専門的な知識を生かしながら、地域で数少ない入院病床を有する総合病院精神科としての役割を担ってゆけるような診療体制を作るとともに、近隣の医療機関の方々や福祉の方々と連携を密にし、患者さんへのサポート体制づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いたします。



精神科スタッフ一同（中央が筆者）

## 産婦人科部長 奥田 美加

産婦人科の奥田美加です。前任の窪田與志部長の定年退任（勤務継続）に伴い、4月より責任者を務めております。

私は2013年4月から、横浜医療センターに勤務しております。赴任してまず感じたのは、周産期医療に欠かせない小児科、救急科、その他の診療科および看護スタッフ、コメディカルスタッフの強い力とフットワークでした。おかげ様で積極的に産科救急を受け入れ、前置胎盤や母体合併症などのハイリスク妊産婦の外来紹介をお受けします。また、婦人科腫瘍専門医、産科婦人科内視鏡学会技術認定医を配しており、他に骨盤臓器脱の治療にも積極的に取り組んでおりますので、多くの患者様をご紹介ください。どうぞよろしくお願いたします。



産婦人科医師一同（前列右が筆者）

## 脳神経外科部長 宮原 宏輔

皆様こんにちは。私は平成16年に当院に赴任、今年度より市川輝夫前部長の退職に伴い脳神経外科診療の責任者となりました。どうぞよろしくお願いたします。

脳神経外科は脳・神経系疾患について広く診療、治療する分野で、現在当院には8名の常勤医師がいます。脳卒中や重症頭部外傷などの救急疾患に対応する一方、脳血管障害や脳腫瘍、三叉神経痛、顔面けいれんなどの機能的疾患などの方の予定手術を毎週月、火、木の週3回行っています。

脳卒中患者は全国で約150万人、20年後には300万人に増加すると推計されています。画像診断技術が格段に進歩し、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤や、脳梗塞の原因となる頸部内頸動脈狭窄症はMRI、頸動脈エコー検査で診断できるようになりました。特に高血圧、糖尿病、脂質異常症などの内科疾患を抱える方はその発生頻度が高いことがわかっています。かかりつけの先生にご相談いただければ当院での検査はすぐに可能ですので是非ご検討いただければと思います。病気が見つかった方には外来で最善の治療法をお話しいたします。他院で手術を勧められたけどもう一度話しをお聞きになりたい、というセカンドオピニオン希望の方もどうぞご相談ください。一生に一度の頭の手術を本当に受けなければならないのか、またどこの病院で受けるかを決めることは脳神経外科では大変重要です。地域の皆様の健康、安心した暮らしのお役に立てるようスタッフ一同尽力してまいります。



毎週木曜日7時30分から行っている術前後カンファレンスの風景（一番右が筆者）

# お知らせコーナー

## 横浜医療センタードクターカーの紹介

救命救急センター長 古谷 良輔

横浜医療センターでは、2017年4月よりドクターカーの運用を開始しております。

“ドクターカー”とは、救急の現場などで医師の処置が必要と判断された場合に、医師らが現場に急行する為の緊急自動車です。

ドクターカーには「救急車型」と「乗用車型」の2種類が存在します。救急車型は患者搬送も可能ですが、当院では救命救急センターのモットーである「垣根が低く、フットワークの軽い救急・集中医療の展開」を実践するため、「機動力」の点で優れる乗用車型のドクターカーを導入しました。

当院のドクターカーは「戸塚区」「泉区」「栄区」全域を対象出動範囲としており、初年度である2017年度の出動は101件、本年度はさらに出動が増加傾向にあります。

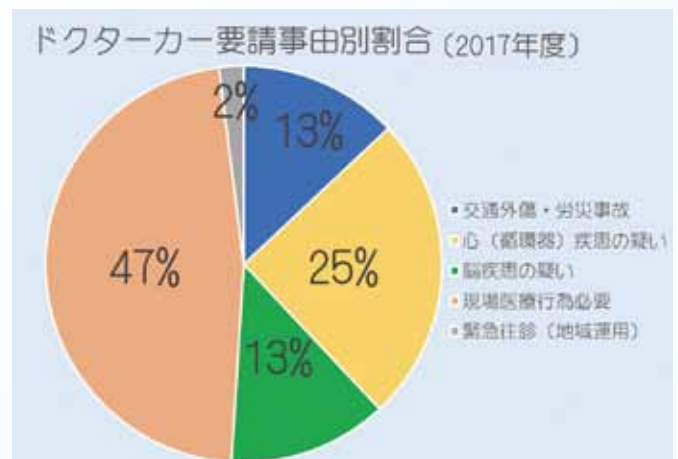
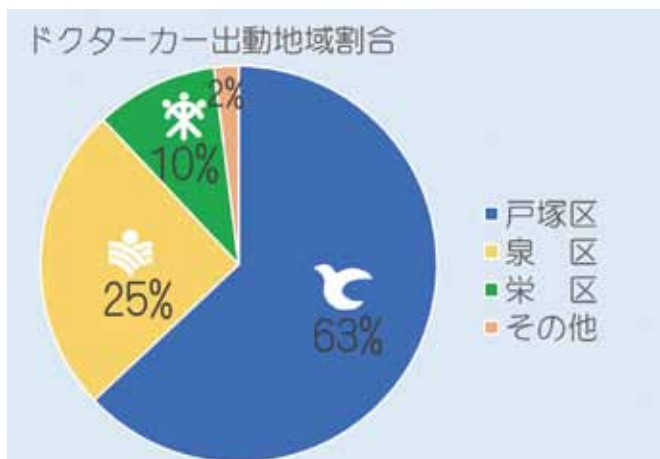
当院のドクターカー要請時に出動するのは、主に救急を得意とする医師、看護師および院内救急救命士の

3名で、119番消防司令センターからの要請により現場に向かいます。現場に到着した後は、救急隊と共に患者さんに対し必要な処置を行いながら適切な搬送先医療機関を救急隊と共に選択します。また病態によっては現場に派遣された医師が救急車による病院搬送に同乗します。医師、看護師が救急現場に出て早い段階で処置を行うことにより、患者さんへの「早期治療」を行うことが出来るのです。

当院のドクターカー運用にはもう一つの特徴があります。それが「地域運用型ドクターカー」で、地域の医療ニーズに対応するためのドクターカーです。当院近隣の病院に入院中の患者さんやクリニック受診中の患者さんに対し、病状や救急搬送の相談、専門科での診療の可否など、当院の専門医が現地にお伺いし、診療のサポートをさせていただくものです。また、在宅医療を行う先生が往診中に、別の患者さんへの緊急往診が必要になった場合など、緊急往診の代行などのサポート体制も準備を進めております。さらに、医療だけではなく、「褥瘡」や「感染」分野の認定看護師や、各種コメディカルなどの「医療のデリバリー」構想も順次進めております。

今後も、地域の様々な医療ニーズに対応できるよう体制整備を行って参ります。

どうぞよろしくお願ひいたします。





## 第20回 内視鏡治療について

消化器内科部長 野中 敬

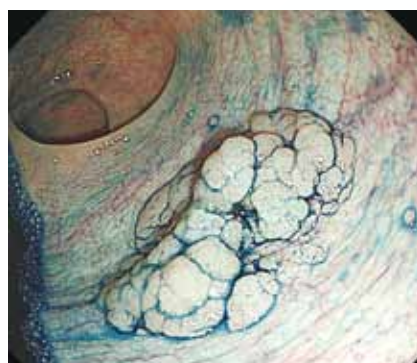
最近の人口動態統計を確認してみますと、日本人の死因の最多の疾患は悪性新生物、すなわち「がん」であり全体の約3割を占めています。臓器別のがん罹患数（がん患者数）は胃がんが最多であり、続いて大腸がんとなっています。また臓器別のがんによる死亡者数は肺がんが最多ですが、大腸がん、胃がんと続いており、消化管を専門としております私達消化器内科医の責任の重大さを自覚する次第です。

「がん」により健康を損なわない、命を落とさないために重要なことは「早期発見・早期治療」であることは言うまでもありません。実際、早期がんの治療成績は非常に良好で、食道・胃・大腸の早期がん適切な治療が行われた場合、いずれも9割以上で治癒が見込めます。これら消化管のがんに対する治療法は、外科手術、抗がん剤、そして内視鏡治療が3本柱とされています。この中で内視鏡治療はがん細胞が消化管内に留まっており、消化管外への転移の可能性が非常に低い場合に選択されます。具体的にはCT検査で転移を疑う所見が見られない早期がんに対して内視鏡治療が行われます。

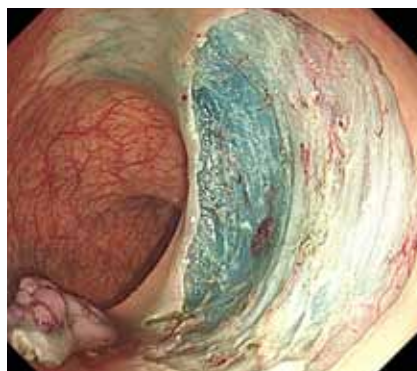
内視鏡治療の利点は多々ありますが、通常に行われる内視鏡検査とほぼ同様の手順で病巣が摘除されるため、体表に手術の傷がつくことはありません。また消化管は切離されなため機能低下等の後遺症が生じることも少なく、術前とほとんど変わらない生活を送ることが出来ます。高齢な方や、併存する疾患により外科手術が難しい方にも施術可能なことが多く、術後の回復も早い「低侵襲治療」として注目されています。

近年では内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）と呼ばれる切除法が確立され、以前では内視鏡による摘除が困難であった部位や大きな病変に対しても適切な治療が行えるようになりました。代わりにESDには高い内視鏡技術が求められ、本手技の習得は容易ではありません。手技の均一

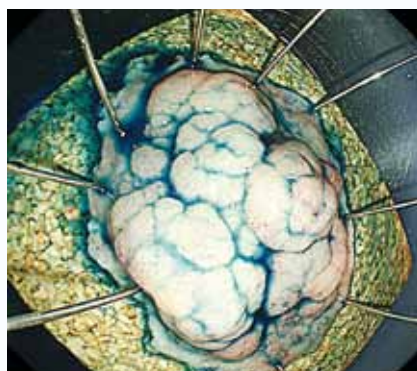
化は図られつつあるも、現実には術者や医療施設間に技能差があることも事実です。横浜医療センターでは2017年4月より、これまで大学病院や地域中核病院で内視鏡治療を専門に取り組んできた医師数名が増員され、これまで以上に高度な内視鏡診療が可能となりました。僅か1年間にESDの施術数は前年度の約4倍の118例となり、安全で適切な内視鏡治療を提供することが出来ました。今後も患者さんに満足して頂ける治療を行えるようにスタッフ一同努力したいと思います。



大腸腫瘍



内視鏡治療後創部



切除検体

## 第19回 ご存知ですか？当院の「医療メディエーター」

事務部企画課医事室長  
齊藤 貴之

医療メディエーションとは、簡単に言うと、裁判に発展する前に紛争を解決する手法です。この手法が医療業界で誕生してから10年が経過しました。当初は紛争解決が主な役割だったのですが、現在では日常的なクレームや患者対応に活用されており、その役割を広げ、医療機関において有効な成果をあげているとされています。

医療メディエーションは医療側と患者側との間でインフォームド・コンセントや有害事象の発生時、予期せぬ急変時対応などのトラブルが起きたとき、「医療メディエーター」と呼ばれる認定有資格者が第三者としてその間に入り、両者の対話、コミュニケーションを促進することで、崩れかかった、もしくは崩れてしまった両者の信頼関係の再構築を支援する仕組みです。昨今ではいわゆる“医療バッシング”の風が吹き荒れ、民事訴訟も増加している時代です。訴訟まで発展すると、“あとは法律家同士へ土俵替え”といったように医療側と患者側が話し合う場所が失われている泥沼図になっています。患者側の「医療者はごまかさずに向き合って欲しい」「本当の事をきちんと説明して欲しい」という思いが届かない一方で、医療側は「病院を守るため仕方ない」「でも本当は謝りたい」などの“良心の呵責”の思いが存在するケースも多々あります。そうした紛争が発展する前に関係を再構築する手段として「医療メディエーター」が配置されているのです。よく誤解されますが、裁判所の調停の様に両者の間に入って解決案を示すようなイメージを持たれますが、答えを出すのではなく、両者の根底にある思いを把握し、問を投げかけながら両者に語り合わせ、最終的に解決や答えは当事者たちが話し合っって“納得した形”を見つけるように支援するのが「医療メディエーター」の役割なのです。

### 第三の人材=「医療メディエーター」



医療メディエーター(認定 医療対話推進者)

「医療メディエーション」は  
「ボタンの掛け違い」をなくす!

現在、当院においては、2名の医療メディエーターを配置しており、苦情対応、クレーム処理から面談調整や紛争案件まで幅広い役割を担っています。今後の当院医療メディエーターの展望としては、患者と接する全職員に向けた研修や勉強会等を実施し、当院の特徴・カラーとして、患者・家族に対して「ごまかさない」「隠さない」真摯に向き合う姿勢と文化の醸成に役立てたいと考えます。



# 病診連携施設紹介

## 戸塚クリニック

**診療科目：内科／循環器科／小児科／糖尿病内科／内分泌内科**

当院は、循環器内科ならびに糖尿病内分泌内科の専門診療を行う総合内科医院です。

特徴は、

1 戸塚駅西口徒歩10分 駐車場最大12台利用：駅ご利用の方も、車ご利用の方もどちらも便利にご来院いただけます。

2 院長である一人の医師で、最後まで責任を持って診療しています。

：曜日によって担当の医師が不在とか、数年ごとに医師が交代するということはありません。

3 循環器内科ならびに糖尿病内分泌内科、両方の専門的診療を提供しています。

：糖尿病治療の真の治療目標は循環器疾患などの合併症による死亡の予防です。循環器疾患にも精通した当院では、糖尿病の合併症予防・治療の観点からも最適な治療環境を提供します。

4 横浜医療センターと、私の出身校の同門ネットワークを駆使したスムーズな連携体制を構築しています。

：横浜医療センターには私の同輩をはじめ、後輩・先輩が多数勤務されております。医師同士の信頼関係に基づいた強固な連携が可能です。

5 患者様との相互信頼関係、関係構築を重視した診療を行っています。

：糖尿病・循環器疾患といった慢性疾患は、治療が長く続きます。それを良好な結果に導くには医師と患者様との信頼関係が重要です。当院では、医師・患者同士お互いをよく知り、何でも話し合える治療環境作りに勤めています。

私は30歳頃までは、タバコを吸って、好きなものを好きに食べ、運動はしない、という不健康な生活を送っていました。当時受診した検診の結果もひどいものでした。それが、ひよんなことから運動習慣を身につけ、そして禁煙にも成功し、食べるものに気を払うようになりました。元の生活を続けていたら、今頃までにはきっと心筋梗塞か脳梗塞を起こしていたと思います。

糖尿病・循環器科疾患といった慢性疾患は、生活習慣の改善という自己改革が求められます。しかし、心筋梗塞を起こしても喫煙を続ける方が多数いらしたりと、その改革はなかなか難しいこともあります。当院では、患者様との信頼関係構築に主眼をおき、必要な生活習慣改善が成功に導けるようお手伝いさせて頂きたいと思っております。

私自身は、ジョギングを主たる運動習慣にしていたのですが、最近はその習慣にスタンドアップパドルリング(SUP)が加わりました。有酸素運動として非常に有用ですし、筋力・バランス感覚維持にも適しています。江ノ島周辺をベースに漕いで(!)います！

新しい医院への来院は勇気がいる場合もありますが、気楽にご来院ください。



村松 賢一 院長



## 戸塚クリニック

〒244-0002 神奈川県横浜市戸塚区矢部町 649

TEL：045-864-2110

ホームページ：<http://www.totsukaclinic.com>

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日祝
午前 9:30～12:30	◎	◎	◎	—	◎	◎	—
午後14:00～17:00	◎	◎	◎	◎	◎	—	—

【休診日】日曜・祝日・木曜午前・土曜午後

※ 受付は診療終了の15分前まで

※ 木曜は午後(15:00～20:00)のみ、

土曜は午前(9:00～12:00)のみ診療

※ 木曜は20時まで夜間診療を行っております

診療科		月	火	水	木	金
外来受付 A	小児科	鈴木 陽一	福山 綾子	小林 慈典	鈴木 陽一	塩谷 裕美
		小形 亜也子	鈴木 健	齋藤 祐	矢竹 暖子	矢内 貴憲
		小林 孝輔	中永 思蘭	塩月 里恵	藤井 まどか	池川 環
	心臓血管外科	益子原 幸宏	休診日(手術日)	交代医師	休診日	西本 隆亨
	形成外科	休診日	村下 一晃	休診日(手術日)	村下 一晃	村下 一晃
整形外科	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	渡邊 竜樹	日塔 寛昇	佐藤 雅経	
	久保田 聡	小林 秀郎	小林 秀郎	佐藤 雅経	久保田 聡	
	堀 莉彩	日野 勝利	外澤 正一	土肥 健人	土肥 健人	
	外澤 正一			堀 莉彩		
外来受付 B	総合内科	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師
	糖尿病内分泌内科	小松 裕美子	交代医師	小西 裕美	大久保 和哉	小松 裕美子
				宇治原 誠		
	神経内科	浅野 敬一郎	土橋 裕一	高橋 竜哉	渡辺 大祐	上村 直哉
	腎臓内科	松下 啓	前田 晃延	休診日	交代医師	休診日
	呼吸器内科	柴田 祐司	休診日	池田 秀平	休診日	榎原 基史
	消化器内科	野登 はるか (第1・3・5曜日)	内山 崇 (第1・3・5曜日)	田邊 浩紹 (第1・3・5曜日)	松島 昭三	山田 英司 (第1・3・5曜日)
		野中 敬 (第2・4曜日)	宮澤 志朗 (第2・4曜日)	小松 達司 (第2・4曜日)		鈴木 大輔 (第2・4曜日)
	循環器内科	岩出 和徳	森 文章	岩出 和徳	岩出 和徳	森 文章
	膠原病・リウマチ内科	井畑 淳	渡邊 俊幸	井畑 淳	井畑 淳	井畑 淳
	外科・消化器外科	清水 哲也	関戸 仁	小暮 悠	関戸 仁	休診日 (手術日)
			太田 郁子 (乳腺外科)			
呼吸器外科	休診日	野間 大督	休診日	渡部 克也	交代医師	
脳神経外科	休診日 (手術日)	岡田 富 (第1・3・5曜日)	瓜生 康浩 (第1・3・5曜日)	休診日 (手術日)	宮原 宏輔	
		宮原 宏輔 (第2・4曜日)	谷野 慎 (第2・4曜日)		藤津 和彦	
緩和ケア内科(ペイン・緩和)	小川 賢一	小川 賢一	休診日	小川 賢一	小川 賢一	
外来受付 C	耳鼻咽喉科	佐々木 祐幸	小野瀬 好英	佐々木 祐幸	小野瀬 好英	交代医師
	眼科	木村 正彦	秦 桂子	岡部 智子	木村 正彦	秦 桂子
		毛塚 由紀子	岡部 智子	山内 悠也	山内 悠也	毛塚 由紀子
	泌尿器科	井上 雅弘	平井 耕太郎	休診日 (手術日)	平井 耕太郎	井上 雅弘
		石川 達郎	米山 脩子		米山 脩子	石川 達郎
皮膚科	上田 喬士	上田 喬士	休診日 (手術日)	上田 喬士	上田 喬士	
	内海 友理	内海 友理		内海 友理	内海 友理	
外来受付 D	精神科	休診日	休診日	交代医師	交代医師	交代医師
	産婦人科	向田 一憲	奥田 美加	窪田 與志	乗杉 輝彦	鈴木 理絵
		楚南 侑子	高山 智子	横澤 智美	交代医師	平原 裕也
	産科	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)
		交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)	交代医師 (妊婦健診)
歯科口腔外科	休診日	根岸 明秀	休診日 (手術日)	根岸 明秀	休診日	
		吉井 悠		吉井 悠		
専門外来 (予約制)	神経内科		頭痛外来(第2・4曜日) 物忘れ外来			物忘れ外来
	膠原病・リウマチ内科			関節超音波		
	呼吸器内科					アスベスト外来 (第1曜日)
	脳神経外科			脳神経血管内治療外来 (畑岡 峻介)		
	放射線科	杉山 正人	杉山 正人	杉山 正人	幡多 政治	杉山 正人
精神科	物忘れ外来				物忘れ外来	

初診受付：(平日) 8:30～10:30

休診日：土曜日・日曜日・祝日、12月29日～1月3日

※急患は随時受け付けております。来院前に病院にご連絡下さい。(代表)045-851-2621

※ 青色の枠の担当医 は、完全予約制となります。

## ◆編集後記◆

暑い日が続いております。“室内での熱中症に注意しましょう”と古谷救命救急センター長が執筆した記事が国立病院機構本部にて発行しています「NHO PRESS ～国立病院機構通信～ vol.8」(近日配布予定)で掲載されます。当院正面玄関にて配布、また[https://www.hosp.go.jp/nho\\_press.html](https://www.hosp.go.jp/nho_press.html)でもご覧頂けますので参考にしてください。